

# 前進座公演

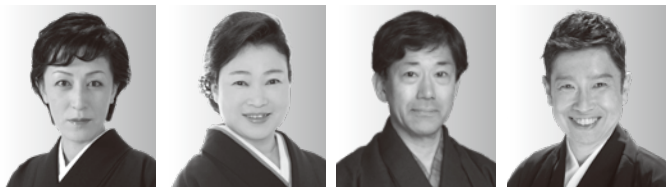
原作＝宮部みゆき（新文芸時評）  
脚本＝佃典彦（劇団四季）  
演出＝松本祐子（文筆会）

# あかんべえ

幅広い層から絶大な人気を得る、  
宮部みゆきワールド。

脚本には、演出家・俳優としても活躍中の、佃典彦氏（劇団四季遊撃隊）。  
演出には、新劇界で引く手あまたの演出家、松本祐子氏（文学座）。

宮部氏、佃氏、松本氏、  
そして前進座が初めて  
タッグを組む意欲作！



おみつ 北澤知奈美



おつた 横澤 寛美



笑い坊 松涛喜八郎



孫兵衛/興願寺の住職 柳生 啓介



おたか 黒河内雅子



浅田屋為治郎 寺田 昌樹



島次/銀次 中嶋宏太郎



多恵 上沢 美咲



おゆう/お静 有田 佳代



玄之介 藤井 偉策



白子屋長兵衛 上滝澄太郎



太郎 渡会 元之



おりん 山本 春美



お梅 松川 悠子



おどろ髪 松浦海之介



ヒネ勝 玉浦有之祐

江戸・深川海辺大工町「料理屋ふね屋」には、  
玄之介・おみつ・笑い坊・おどろ髪・お梅の五人の  
「お化けさん」がなぜか成仏できずに彷徨っていた。  
ふね屋の一人娘・おりんは、高熱に倒れ死の淵を  
さまようが命を取りとめる。その日からおりんには、  
この五人のお化けたちが見えるようになった……。  
おりんと語らう中で、お化けたちが留まっている  
原因が三十年前にこの地で起きたある事件に関わっ  
ていることがわかってくる。そして、おりんの他に  
も、お化けさんの姿が見える人がいて……。  
「お化けが見える人は、お化けと同じ心のしこりを  
持っている」  
ふね屋にとつた人々々の心のしこりが様々な形で  
現れ、次々と思いがけない出来事が襲ってくる。傷つき  
打ちひしがれながらも、ふね屋の人々もお化けたち  
も、互いに相手を思いやることで乗り越えていく……。  
「人は、つながり合って生きてゆける」  
人と人との絆が分断されがちな現代に  
贈る、ファンタジック・ミステリー!!



## 宮部みゆき

1960年生まれ。東京都出身。  
東京都立墨田川高校卒業。  
法律事務所等に勤務の後、87年  
「我が隣人の犯罪」でオール  
讀物推理小説新人賞を受賞して  
デビュー。

長編『あかんべえ』を書いていたころは、  
私の仕事歴のなかでも、ファンタジー熱が  
いちばん高まっていた時期でした。それは  
多分にテレビゲームのファンタジーものか  
らの影響があったわけですが、自分の作品  
を創りあげるときには、やっぱり自分らし  
い色合いを出したいと思いい、そうすると  
必然的に時代ミステリーの要素が前面に  
出てきました。  
また、子供が大事なキャラクターとし  
て登場する作品は、同じくらしい年代の  
子供さんに読んでもらいたいという思い  
もあり、言葉づかいや出来事の説明に気  
をつけるようにしました。それが上手く  
いったのかどうか、当時はまったくの手探  
りでしたし、今になって読み返してみまし  
ても、自分では判断がつかなくて曖昧な  
ままです。  
今回、前進座さんのプロデュースで  
『あかんべえ』が舞台化され、私が迷っ  
たり楽しんだり頭を抱えたり、たまに  
は一人でにんまり笑ったりしながらこ  
しらえた訳ありの「お化けさん」たち  
が、生身の役者さんたちの力で現のも  
のとなります。それが何よりも嬉し  
く、有り難く、心から楽しみにしてお  
ります。

美術＝乗峯雅寛  
照明＝桜井真澄  
音楽＝日高哲英  
効果＝横山あさひ  
ステージング＝瀧美博  
演出助手＝横山あさひ  
舞台監督＝小野文隆  
宣伝美術＝市川きよあき事務所  
宣伝イラスト＝アコル  
制作＝豊田美智恵

## 初演の舞台より

日本を代表するミステリー作家  
宮部みゆきさんの作品を前進座  
の舞台で初めて拝見しました。  
今までの前進座の舞台とは全く  
違う斬新な舞台でした。長編の小  
説をよくまとめたと思いました。



「佃先生の脚本がすばらしいと思  
いました。新しい前進座を観させて  
もらいました。  
江戸の下町を舞台に展開する宮部  
みゆきさんの「お化け・ようかい」物  
は、どれも愛嬌のあるかわいなお  
化けたちで、宮部さんのこの類の  
物は大好きです。前進座の皆さん  
がその原作を100%生かして面白  
く楽しい舞台にして下さいました。」



「本当に楽しいお芝居堪能しました。全員主役という  
感じでどの方も素晴らしい。  
大迫力で感動、俳優さんの熱気、熱演すごかった。  
パシパシ伝わりました。」  
「あかんべえ」原作の長さ複雑さをどの様に舞台化  
するのか興味津々でしたが、大変要領よくまとめて  
作ってあるので感心しました。

